

基本目標Ⅰ：“働きたい”がかなう酒田をつくる①

1. 地域資源を活かした産業振興と創業支援

(1) 重要港湾である酒田港を活かした産業振興

【数値目標】 5年間で新規就業者を600人創出

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
国内外向けの貨物量の拡大 【商工港湾課】	○ポートセールスの推進や荷主に対する助成等の実施により、酒田港のコンテナ取扱貨物量は、平成26年、27年、28年と3年連続で過去最高を記録した。コンテナ貨物の急増も選考理由の一つとなり、その年で最も「みなとの元気」を高めた港湾として「ポート・オブ・ザ・イヤー2016」を受賞するなど、全国から注目されている。	○酒田港は酒田市経済活動の根幹にあり、酒田港の活性化は、地域経済・雇用環境の好転に資するものであることから、酒田港の利用増加につながる取組みについて、引き続き重点的に実施していく。 ○「ポート・オブ・ザ・イヤー2016」の受賞を追い風とし、県と一体となったポートセールスを引き続き実施し、新規荷主の獲得に向けた取組みを進める。また、リサイクル貨物についてもコンテナで輸送されているものがあるため、リサイクル貨物の増加に向けた取組みを実施する。 ○コンテナ貨物の急増に対応するための岸壁の延伸整備など、酒田港の機能強化を図っていく。
内外航クルーズ客船の誘致 【商工港湾課】	○“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会の中に、新たに「外航クルーズ船誘致部会」が発足し、国・県・酒田市などの市町村、民間企業が協力して外国クルーズ船の誘致や、地元の機運醸成に取り組んだ。その結果、酒田港として初の外国クルーズ船の寄港が決定し、受入態勢の構築に向けた検討や、市街地活性化につながる取組みの準備が進められている。	○国・県・市が一体となった誘致・受入を行い、今後も酒田港への大型クルーズ船の寄港が続くように、船社・旅行代理店へのポートセールスに取り組んでいく。 ○「酒田交流おもてなし市民会議」とも連携しながら、観光振興及び地域経済への波及効果、並びに乗船客の酒田港のイメージアップ等を図ることができると期待する取組みを、重点的に取り組んでいく。
港湾利用・物流拠点型産業の集積 【商工港湾課】	○リサイクルポート拠点化方策、リサイクル関連事業の創出及び企業誘致方策の検討やリサイクル事業における啓発活動を実施した。平成15年のリサイクルポート指定以降、リサイクル関連貨物は、約2.5倍に増加しており、リサイクルポートにおいて酒田港は全国でも先進地として認知されている。 ○毎年、能代港（秋田）、姫川港（新潟）、境港（鳥取・島根）のリサイクルポート各港が参集し「リサイクルポート勉強会」を継続的に実施し、企業間マッチングや課題解決に取り組んでいる。	○引き続き、リサイクルポート拠点化方策、リサイクル関連事業の創出及び企業誘致方策の検討やリサイクル事業における啓発活動を実施する。

重要業績評価指標（KPI）

指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	進捗評価
コンテナ貨物取扱量	TEU/年	35,000	13,799	22,028	23,658	概ね順調
クルーズ船寄港回数	回/年	5	3	4	4	概ね順調
クルーズ船による外国人観光客数	人/年	2,000	-	0	0	遅れているが 外国クルーズ船の寄港決定
環境・リサイクル企業の誘致	社 (5年間延べ)	1社以上	-	0	1 (累計 1)	目標達成

1. 地域資源を活かした産業振興と創業支援

(2) 地元企業の事業拡張の促進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
海外での販路拡大に対する支援 【商工港湾課】	○海外販路拡大支援助成金を交付することで、海外での販路拡大を図ろうとする意欲的な事業者を支援することにより、販路拡大につながった。	○本市の産業振興策として有効に機能しており、積極的な事業の周知及び利用勧奨を継続実施することで、市内中小企業者等の競争力強化及び販路拡大を図る。 ○さらに効果的な事業となるよう制度改正の検討を行う。
経営力の向上と取引拡大に対する支援 【商工港湾課】	○異業種交流活動の促進、中小企業の連携支援並びに新製品・新技術研究開発等助成金、ビジネスチャンス拡大支援助成金、地域小売業販路拡大支援助成金、ものづくり研究機関活用支援助成金及び元気な地元企業応援助成金を交付することで、市内企業の経営力向上と取引拡大を支援した。	○事業拡張（設備投資）、競争力強化及び販路拡大に伴って、良質（正社員、高い給与水準、高度人材職種）で当地域の求人・求職バランスにマッチした雇用の創出、本社機能の拡充、生産性の向上、現金給与総額の増加につながるなど、経済波及効果が最も大きくなるよう、各種支援制度の内容の見直し及び適用を行っていく。
工場等の新設や拡充する企業への支援 【商工港湾課】	○工場等設置助成金及び工場等拡張支援助成金を交付し、工場等の新増設や設備導入する地元企業の初期投資を軽減する支援を行うことにより、工場等の用地拡張を支援した。	○本市においては、比較的大規模な事業拡張（立地）に対応できる工業用地や賃借物件（工場・倉庫）がほとんど無いため、新たな工業用地の開発や本市直営の貸工場等の整備について検討していく。 ○企業誘致（立地）に伴って、良質（正社員、高給与水準、高度人材職種）で求人・求職バランスにマッチした雇用の創出、本社機能の拡充、生産性の向上、現金給与総額の増加、競争力強化、酒田港の利活用につながるなど、経済波及効果が大きくなるよう、各種支援制度の内容を見直していく。
産業支援センター（仮称）の設立による相談支援窓口の一本化 【商工港湾課】	○新組織の立上げに向けて、専門家からの運営体制に関する助言及び連携する関係機関と意見交換を行う中で、マーケティング機能などより充実した支援体制を構築するためには、更なる検討が必要と判断し引き続き取り組むこととした。	○本市全体の産業・まちづくりの振興を促進し「産業・交流都市」として発展していくためにはどういった要素、人材が必要かをより深く検証し、販路拡大及び商品開発等の戦略の仕組みを融合させながら、地域産業の課題解決、より有効なマッチング支援を提供できる新たな組織を平成29年度中に立上げるため取り組んでいく。

重要業績評価指標（KPI）

指標	単位	目標	基準値	実績		進捗評価
				実績(H27)	実績(H28)	
製造品出荷額等	億円/年	2,500	2,013	2,325	未確定	
商談会への参加企業数	社 (5年間延べ)	200	-	63	41 (累計 104)	概ね順調
工場等の用地拡張面積	m ² (5年間延べ)	5,000	-	21,272	8,339 (累計 29,611)	目標達成

1. 地域資源を活かした産業振興と創業支援

(3) 創業支援の強化

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
創業期の支援 【商工港湾課】	○平成26年9月に酒田市創業支援センターを開設し、創業相談に対しワンストップで支援している。また、商工会議所における創業塾の開催や創業融資支援助成金、創業フォローアップ助成金を実施したことにより、創業件数が増加した。	○創業・起業を対象とした民間のファンドやインキュベーション機能（スペース）の活用及び連携を視野に入れ、実のある創業・起業が増加するよう、事業の内容及び運用について見直しを図る。
産学官連携によるIT事業者の集積と起業家の育成 【商工港湾課】	○山形県初の産学官が連携したコワーキングスペースを整備し、当該スペースの利活用を通じて、創業・起業を促進するための利用者間の交流機会を創出した。	○平成28年度に試行的に実施しているコワーキングスペース「アンダーバー」の開館時間延長の実績を踏まえ、利便性や起業等の効果が高まるよう、サービス（機能）の内容を見直していく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
創業件数	件 (5年間延べ)	100	-	31	31 (累計 62)	概ね順調
コワーキングスペース利用者による創業件数	件 (5年間延べ)	10	-	0	2 (累計 2)	やや遅れている

1. 地域資源を活かした産業振興と創業支援

(4) 企業誘致の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
大卒者等の専門的で高度な知識・能を活かす就業の場の確保 【商工港湾課】	○工場等を新設、拡充又は移設するために用地を取得した企業に対する用地取得費の一部助成により、企業立地及び雇用機会の拡大を支援した。また、市の誘致により市内の賃借物件において操業を開始した市外企業に対し、その賃借料及び改装費の一部を助成し、地元定着化や雇用機会の拡大を支援した。	○企業誘致（立地）に伴って、良質（正社員、高給与水準、高度人材職種）で求人・求職バランスにマッチした雇用の創出、本社機能の拡充、生産性の向上、現金給与総額の増加、競争力強化、酒田港の利活用につながるなど、経済波及効果が大きくなるよう、各種支援制度の内容を見直していく。
企業誘致の推進 【商工港湾課】	○用地取得助成金、賃借型立地企業定着促進助成金、情報通信関連企業立地促進助成金を交付することで、新たな雇用を創出した。	○企業誘致（立地）に伴って、良質（正社員、高給与水準、高度人材職種）で求人・求職バランスにマッチした雇用の創出、本社機能の拡充、生産性の向上、現金給与総額の増加、競争力強化、酒田港の利活用につながるなど、経済波及効果が大きくなるよう、各種支援制度の内容を見直していく。 ○また、これまで培った有力経済人とのパイプに加え、平成28年度の新規事業「酒田ゆかり人交流事業」などを通じて、有力経済人との新たなパイプを構築していく。
良質な雇用を創出する立地企業への積極的な支援の拡充 【商工港湾課】	○じもと定着雇用創出設備投資促進助成金を交付し、良質な雇用を創出する立地案件を支援した。	○地元定着に資する企業立地（設備投資）を検討する市内外の企業に対して初期投資を軽減する当該助成金の活用を奨励し、その適用及び当該助成金の交付により、地元定着に資する良質な雇用創出の増加を図る。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
企業立地促進事業、賃借型立地企業定着促進事業の助成金適用企業の雇用者数	人 (5年間延べ)	100	-	53	0 (累計 53)	概ね順調
情報通信関連企業立地促進事業の助成金適用企業の純増稼働席数	席 (5年間延べ)	195	-	78	16 (累計 94)	概ね順調

1. 地域資源を活かした産業振興と創業支援

(5) 再生可能エネルギー関連産業の振興

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
再生可能エネルギー企業や研究機関の誘致【商工港湾課】	○平成28年度は、太陽光発電所1社が立地した。	○引き続き、リサイクルポート拠点化方策、リサイクル関連事業の創出及び企業誘致方策の検討やリサイクル事業における啓発活動を実施する。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
再生可能エネルギー関連企業や研究機関の立地	社 (5年間延べ)	1社以上	-	1	1 (累計 2)	目標達成

2 魅力あふれる農林水産業の振興

(1) 担い手への施策の集中支援と農地集積及び複合経営等の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
地域の担い手への農業支援策の集中と農地の集積・集約 【農政課、農業委員会】	<ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度からスタートした農地中間管理事業等を推進する上で、総合的な窓口としての役割を担う「酒田市農地集積センター」を立ち上げ、事業の周知を図りながら、農地の集積・集約に取り組んだ。また、中心となる経営体の行う経営面積の拡大、高付加価値化等の取組みに対する助成、農業経営初期段階の青年就農者に対する給付金の給付等、担い手への支援を行った。 ○農地の総合的な窓口である「酒田市農地集積センター」を活用し、農地中間管理事業等による農地の集積・集約に取り組んだ。しかし、ファームの法人化が予定より進まず、平成27年度に比較すると農地中間管理事業の配分は進まなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担い手の効率的な農業経営を推進するために、「酒田市農地集積センター」を十分に活用し、更なる農地の集積・集約に取り組む。 ○新規就農者の育成を含めた担い手の育成確保のために、関係機関の連帯指導や情報交換のネットワークづくりのための支援を強化する。また、経営初期段階の支援は重要であり、ニーズに合わせた支援を充実していく。 ○集落営農等法人化の促進と併せて、法人の人づくりと組織づくりの両面からの経営支援の強化を図る。 ○関係機関との連携を図り、「酒田市農地集積センター」を十分に活用することで、更なる農地の集積と集約に取り組む。
複合経営の推進 【農政課】	<ul style="list-style-type: none"> ○園芸特産化支援指導員による営農指導、植物バイオテクノロジー関連分野の人材育成と特産農産物の育種開発に取り組むとともに、園芸生産基盤の整備に対する助成や園芸品目の産地化・ブランド化のための取組みに対する支援を行った。農事組合法人がミニトマト栽培用の大型ハウスの整備を行い、そのうちの一棟は通年栽培ができるように暖房機器も整備した。複合経営に取り組む法人のモデル的な事業である。以上のように施設の整備や、作業受託の充実による産地化が図られており、年々園芸販売額は増加してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農家所得の増加のため、園芸品目の産地化、ブランド化に向け、土地利用型や施設利用の品目に絞って支援を充実していく。 ○花き類については、種苗導入時に費用増加するため、振興品目に絞って導入時に支援していく。
米の多角的経営の推進 【農政課】	<ul style="list-style-type: none"> ○はえぬきに比べ収量が多く、マーケットインの取り組みである、つくばSD2号の試験栽培を当事業を活用しながら適応性について実証を行った。多収性という面では、はえぬき630kg/10aに対して、つくばSD2号637.7kg/10aで単収が上回った。品質としては、胴割れが見られるなど課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○収量と品質の面において、一定の成果と課題を見つけることができたため、当事業は平成28年度を持って終了とする。

重要業績評価指標 (K P I)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
農業収入額	億円/年	300	152	168	未確定	
認定農業者法人数	法人数 (5年間延べ)	60	22	42	9 (累計 51)	概ね順調
集落営農組織・認定農業者等の面積シェア	%	80	65	75	76	概ね順調
新規就農者数	人 (5年間延べ)	100	-	8	15 (累計 23)	やや遅れている
園芸品目の販売額 (J A 販売分)	億円/年	24	20	31	未確定	

2 魅力あふれる農林水産業の振興

(2) 6次産業化と農商工連携の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
6次産業化と農商工連携の強化 【農政課】	○6次産業化や農商工連携により商品開発に取り組む実践者に対する支援を行った。また、主に庄内地域の実践者・実践希望者を対象とした6次産業化・農商工連携セミナーを開催し、市内加工業者の講演による具体的な取組みの事例発表、加工食品の試食、意見交換、やまがた農業支援センター及び山形県農業振興公社のアドバイザーによる個別相談会を行った。さらに、「酒田市食育・地産地消推進計画（酒田市6次産業化戦略）」を策定し、本市の6次産業化の基本的な方向性を示すとともに具体的な数値目標を掲げた。	○6次産業化に関するセミナーへの参加を呼びかけるほか、商談会等に出展し販路拡大に取り組む団体を支援する。また、地場産農林水産物を単に使用するだけでなく、消費者ニーズを踏まえた上での商品開発及び販路を確保する取組みを推進する。 ○農業者団体や商工業者等に対して国内外で開催される商談会などの情報を提供するとともに、出展を支援し、プロモーション活動を促進する。 ○異業種間の交流の機会を設け、情報提供や人脈づくり、知識やアイデア、技術提供の場をつくり、相互理解のもと、地域が一体となった地場産農林水産物の高付加価値化及びブランド化を推進する。
庄内の多彩な食材と豊かな食文化を活用した「食の都庄内」 【農政課】	○「食の都庄内」弁当プロジェクトにおいて、地元食材を使い、庄内の洋食文化をイメージした「庄内ピストロ弁当」を企画した。豊かな海づくりフェスタや農林水産まつりでPR・販売を行い、更なる定着を図った。豊かな海づくりフェスタにおいてはブースの出展にも取り組み、庄内地域の多彩で質の高い食材や加工品の地域内外への周知を図った。	○県庄内総合支庁が組織する「食の都庄内」ブランド戦略会議と連携し、庄内地域全体の農林水産業の振興やブランド化、販路拡大に取り組む。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
6次産業・農商工連携取組み増加件数	件 (5年間延べ)	15	-	2	4 (累計6)	概ね順調

2 魅力あふれる農林水産業の振興

(3) 農林水産物の海外輸出の促進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
<p>農林水産物の海外輸出の取り組みへの支援と強化 【農政課、まちづくり推進課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○酒田地区農産物輸出推進協議会がロシア（サンクトペテルブルク、モスクワ）において花き（啓翁桜、ストック）のプロモーション活動を行った。現地での評価も高く、取引の拡大が期待できる感触があった。また、酒田港から船便で花き（啓翁桜、ストック）のテスト輸送を実施し、花の状態やコスト面での検証を行った。啓翁桜については、十分な品質を確保でき、輸出の拡大に向け可能性を感じる結果であった。 ○「酒田市・山形県国際経済交流推進協議会」を設立し、日本酒・農林水産品等の輸出拡大及び観光等の交流を促進するための啓発事業を行った。 ○5月に「酒田市・山形県国際経済交流使節団」をローマ市に派遣し、次のとおり事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ市の著名人約150名を招待し、本市の地酒を提供し、PRを行った。 ・現地の旅行エージェント8社に対し、本市の観光PR、日本酒の説明と試飲、オランダせんべいの試食を行った。 ・レストラン関係者、輸入業者、フードブロガー、ジャーナリストなど57名を招待し、地酒、米粉パン、オランダせんべいなどを提供、PRし、輸出につなげるための経済交流レセプションを行った。 ・現地の一流レストラン10店に地酒とつや姫を無償提供し「酒田ウィーク」とし、一週間それぞれのレストランで提供してもらうとともに、専用チラシも配布してPRを行った。 ○6月にイタリアの日本酒輸入業者を本市に招聘し、酒蔵の見学、経済交流レセプション、商談会を行った。 ○3月にローマの日本酒ソムリエ、レストラン関係者を本市に招聘し、酒蔵の見学、経済交流レセプションを行った。 ○9月に210本、1月に162本の梅酒の注文がありイタリアへ輸出した。また、6月に招聘した日本酒輸入業者が日本酒と食事を楽しむレストランをオープンし、酒田の地酒が簡単に低価格で常時提供可能となったことから、一定の効果はあったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して海外でのプロモーション活動を実施し、新たな需要の確保につなげる。また、酒田港や庄内空港を活用し、花き等のテスト輸送を実施するとともに、米を含む他の農産物についても販路拡大を図る。 ○ローマとの交流事業を契機として、引き続き関係団体と連携を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
農産物輸出量（米果実等）	t/年	70	60	15.5	64	概ね順調
農産物輸出量（花き・花木）	本/年	8,000	900	5,750	7,490	概ね順調

2 魅力あふれる農林水産業の振興

(4) 地域循環材システムの構築

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
木質バイオマス資源等の利活用と利用循環の促進 【農林水産課】	○継続して事業を実施することにより、林家に対して、山林の荒廃防止と資源の利用循環を図るといふ動機付けをすることができ一定の成果があった。	○林家自身が、軽トラックで間伐材を森林組合に搬入する形態の林業を3年間実施することにより、循環型林業に対する林家の関心を高めることができたことは大きな成果である。今後の事業のあり方については、北庄内森林組合と協議し次年度以降につなげていく。 ○市としては、県内において木質バイオマス発電所の稼働による燃料需要や、集成材工場建設による旺盛な木材需要の高まりがあることから、引き続き資源の利用循環を積極的に推進していく。
地域材の供給拡大と地域材による住宅建設の促進 【農林水産課】	○市民が地域材を使った住宅を建設する際に、補助金や借入資金利子補給などのインセンティブにより地域材の利用促進が図られた。 ○市が率先して市有林間伐事業を実施することにより、地域材の利用循環を図るとともに、山林の適正管理を行うことで、林家に対して間伐の必要性を周知することができた。 ○林道整備事業については、平成29年度へ繰り越し実施する	○引き続き、市民が地域材を使った住宅を建設する際に、補助金や借入資金利子補給等のインセンティブにより地域材の利用促進を図っていく。 ○市が市有林間伐事業を引き続き実施することにより、地域材の利用循環を図るとともに、間伐により良好な山林環境を維持することの重要性を林家に対して周知していく。 ○市が林道整備事業を実施し民有林の搬出間伐を促進することで、地域林業の活性化を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
木材素材生産量	m ³ /年	35,000	19,489	29,648	27,176	概ね順調

2 魅力あふれる農林水産業の振興

(5) 水産業の持続的な発展

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
水産業を支える人材の確保・育成 【農林水産課】	○県や関係団体と連携することで、10代の青年1名が就業した。	○県や関係団体と連携し、新規就業者支援事業等の補助事業等のPRを積極的に行うことで人材の確保・育成を図る。 ○市としては、中型いか釣り船団の労働力を確保するために、外国人漁業研修生の受け入れに対して関係団体の活動を引き続き支援する。
水産資源の確保とブランド化 【農林水産課】	○小学生がサクラマス等の放流体験活動を行うことで、生態系保護意識の啓発が図られた。 ○「つくり育てる漁業」に期待が寄せられていることから、酒田本港内において、種苗の生存率を高めるための取組みを行う県漁協に対して支援を行った。 ○漁業者の所得向上を図るため、県内陸部における庄内浜水産物の認知度向上及び消費拡大の取組みとして、県漁協が山形市内のスーパーに産直ブースを設置する取組みに対して支援を行った。 ○酒田港への船凍イカの水揚量を増加させ「いかのまち酒田」を周知するために、新たに屋外シャワーユニットの借上げ等への補助を実施し、船員への生活環境支援を行った。	○つくり育てる漁業を推進し、水産資源を安定的に確保していくため、稚魚の放流事業を強化する。特に、栽培漁業効果が高く単価の高いトラフグの種苗放流に対する支援を拡充していく。 ○中型いか釣り船団への支援を拡充し、県と市及び県漁協が一体的に連携して船凍イカの水揚量を増加させるとともに、水産加工業者への船凍イカの安定供給に努める。 ○ブランド化に関しては、引き続き水産物直売トライアル事業を実施し更なる拡大を図っていく。また、いか釣り船団出航式を開催し、酒田港をスルメイカの水揚地として周知することで酒田の船凍イカのブランドを広げる。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
新規就業者数	人 (5年間延べ)	7	-	5	1 (累計 6)	概ね順調
漁業生産額	百万円/年	1,273	1,158	1,335	2,160	概ね順調
水産加工業の誘致	社 (5年間延べ)	1社以上	-	1	0 (累計 1)	目標達成

3 観光産業の振興と交流人口の拡大

(1) 観光振興計画中長期戦略の構築と推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
観光振興計画中長期戦略の構築と推進【観光振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ○観光誘客に取り組んでいる民間企業や団体等の活動を支援する「観光誘客支援補助金」を創設し、インバウンド受入態勢整備、本市へのモニターツアー造成、観光情報発信の取組みに対し補助を行った。 ○モニターツアー造成では、タイからテレビ局及び旅行会社を招請した企画に対し補助を行った。県内に5日間滞在し、45分番組を5本収録した。補助事業者は、H29.4～7月まで4本のツアーを実施予定で（105名が参加予定）、今後についても更なる誘客が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き観光戦略を具体化する各種施策を企画・実施していく。 ○既存の事業においても、戦略のオリジナルストーリー「KOEKI（交易と公益）のまち・酒田」と4つのサブストーリー「歴史・伝統」「食・食文化」「自然景観」「公益と豪商」を踏まえた内容としていく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
酒田市観光振興計画中長期戦略の構築と推進	-	H27年度に策定、H28年度から推進	-	戦略の策定	戦略の推進	概ね順調
観光客入込者数	千人/年	3,200	2,805	3,012	2,968	概ね順調

3 観光産業の振興と交流人口の拡大

(2) 観光資源の磨き上げと活用

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
<p>歴史・文化、食を柱とした観光振興 【観光振興課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「酒の酒田の酒まつり事業」は、有料試飲売上が前年度比47.8%増(2,444杯)、雛バルに関しては、前年度に比べ倍程度の443セットのチケット枚数を売り上げた。いずれの事業も、イベント自体の知名度も上がっている。 ○「酒田ゆかりびと交流事業」では、H28年9月に酒田DAY、酒田WEEKを武蔵野市吉祥寺で開催した。酒田DAYは吉祥寺に來訪している首都圏の客にPRでき、酒田WEEKは吉祥寺駅周辺の飲食店に酒田産のつや姫、日本酒を提供した。その結果、1店から酒田の日本酒をおいてもらうことができ、ここを起点に周囲へ波及することが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も観光客や県外者へ向けた「酒の酒田」のPR等に力をいれ、酒の酒田の酒まつりを継続させることで、イベントを通じた「酒の酒田」のPRと酒田市への誘客を図る。
<p>観光ルートの設定と街なか観光の充実 【観光振興課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○観光パンフレットに、観光自転車で行く観光モデルコースを掲載したり、まちあるきマップを作成し、市内の回遊性を高める取組みを行った。パンフレットは15万部作成し周知を図ったが、観光自転車利用実績は10,106人で、前年比2,255人の減のため、目新しいコース設定の検討が必要。 ○回遊しやすい中心市街地の酒田大獅子を基点に、まちあるきスタンプラリーを実施した。まちあるきスタンプラリー参加者数は1,520人で、前年比444人の減。国の交付金の減によりポスター制作枚数を半減したことから、周知に影響があった。 ○東日本旅客鉄道株式会社で実施している「駅からハイキング」を活用し、酒田駅を基点に中心市街地を周遊するコースを設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中長期観光戦略のオリジナルストーリー、サブストーリーをテーマとした回遊コースを検討する。 ○日本遺産の認定を受け、北前船の歴史や文化に関わる箇所や、酒田港本港地区の「みなとオアシス酒田」を回遊する取組みを検討していく。 ○市内各所にある案内板について、街なかの周遊につながるような、利用しやすく統一されたデザイン案内板を整備する。(中心市街地活性化計画に街なかサイン整備事業を位置付け)
<p>インバウンドの取組み強化 【観光振興課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「みちのくインバウンド推進協議会」(民間主体、H27設立)が実施する、エージェントやメディア向けモニターツアーへの支援を行った。モニターツアーでの立ち寄り箇所でのインバウンド入り込み数が大きく増加した。 ○インバウンドの増加に備え、酒田市在住外国人を対象に市内の観光施設等を回り歴史や文化を知ってもらう研修会を実施した。この際観光ガイドをボランティア通訳グループに担ってもらい、ガイドのスキルアップにもつながるようなやり方とした。在住外国人対象の研修会については、実施時期が外国人の帰郷や旅行の時期と重なり、参加者2名という状況であったが、ボランティア通訳の実践場所の確保という意味では大変効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インバウンド対策に取り組む民間団体を引き続き支援することにより、インバウンドツアーを受け入れるとともに、受入態勢を整えていく。 ○外国クルーズ船の寄港などの際には、一定数の通訳や観光ガイドの確保が必要となるため、関係部署と連携して通訳ボランティアを確保したり、在住の外国出身者に対する研修会を引き続き実施することで、通訳及びガイドの補助役を養成していく。 ○県や、周辺市町村と連携し、メディアやエージェントの招請事業を実施していく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
観光客入込者数 (再掲)	千人/年	3,200	2,805	3,012	2,968	概ね順調
外国人観光客入込数	人/年	7,000	2,656	2,657	3,620	やや遅れている
外国人観光客の免税利用件数		420	-	102	220	概ね順調

3 観光産業の振興と交流人口の拡大

(3) 着地型観光の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
農業体験交流やグリーン・ツーリズムの推進【農政課】	○酒田市グリーン・ツーリズム推進協議会会員より農業体験プログラムの提供を受け、体験希望者の受入を実施するとともに、季節に応じた農業体験イベントを企画し市広報などで募集を行った。また、ホームページやFacebook、ラジオ、ガイドマップ作成などによる情報発信を実施した。グリーン・ツーリズム体験者数は増加傾向にあるが、体験者数が少ない体験プログラムもあるため、効果的な情報発信の仕方を検討する必要がある。	○農林水産業、商工業関係者等との連携を強化し、体験型イベントや農業体験プログラムを機軸とした、食材や自然に触れることができるテーマ観光を推進し、本市の魅力を市内外に発信する。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
グリーン・ツーリズム体験者数	人/年	2,000	1,539	2,018	1,906	概ね順調

(4) 交流拠点となる庄内空港の利活用の促進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
庄内空港の利用拡大及び運動拡充【商工港湾課】	○平成3年に開港した庄内空港は、開港25周年を向かえ、延べ搭乗者数は900万人を超えた。 ○搭乗者数の増大・搭乗率向上に向けた助成制度の実施や利用拡大につながるプロモーション、商品造成助成を実施した。また、冬季間の搭乗者確保や新規利用者獲得のために、「さかた市民の翼」ツアーを実施した。	○庄内空港の利用促進については、市民・市内企業の利便性向上、他地域との交流人口増加に資するため、重点的に取り組んでいく。 ○中型機の継続運航、東京線の5便化、新規路線就航、利用しやすいダイヤの改正等を引き続き要望していく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
庄内空港搭乗者数	千人/年	400	367	366	379	やや遅れているが 8年ぶりに37万人を突破

3 観光産業の振興と交流人口の拡大

(5) 広域観光の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
広域観光の推進 【観光振興課】	○関係自治体と連携し、観光誘客・交流・講座等を行った。「鳥海山・飛鳥ジオパーク」については、出前講座やワークショップなどにより住民の理解が深まり、県境を越えた行政と学術関係者が支援する体制が構築され、9月に認定を受けることができた。	○既存の広域団体である庄内観光コンベンション協会や日本海きらきら羽越観光圏推進協議会、鳥海山・飛鳥ジオパーク協議会などとも引き続き連携を深め、広域観光を進めていく。 ○観光庁の認定を受けた「日本奥の院・東北探訪ルート」については、酒田・鶴岡・出羽三山を含めた広域観光ルートの設定に向け、東北観光推進機構と連携していく。 ○鳥海山・飛鳥ジオパークは、従来のPR活動に加え、地域が主体となったジオパークを活用した観光振興・地域振興を支援するとともに、小学生の総合学習としてジオパーク教育への取組みを推進する。協議会を中心とし3市1町による広域的なジオパーク活動を推進する。 ○平成29年4月、北前船寄港地・船主集落が日本遺産に認定されたことにより、そのネットワークを活用し交流人口の拡大につなげていく。また、北前船寄港地である縁を活かして、秋田市との交流事業は引き続き行っていくことになるが、今後は観光分野に限らず、教育や他の分野においても交流していく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
外国人観光客入込数(再掲)	人/年	7,000	2,656	2,657	3,620	やや遅れている
ジオパーク認定観光入込者数	千人/年	104	-	99	79	概ね順調

1 若者の定住促進

(1) 高校生、大学生の地元就職の機運醸成

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
市内企業の理解促進、市内企業の情報提供【商工港湾課】	○市内高校生、高校生の保護者、大学生等を対象に市内企業を見学する「おしごと拝見ツアー」を実施するとともに、高校生向け市内企業紹介冊子を作成し、市内高校生等へ配布し、地元企業の理解を深めたことにより、新規高卒者の県内定着率は、平成27年度の64.3%と比較し、平成28年度は69.1%にと更に向上した。	○高校生の地元定着については、依然として県平均よりも低いことから、高校等と情報交換を行い、高校生や保護者も含めた地元企業見学ツアーや各種就職関連セミナーを開催する。また、平成29年度は市内企業約350社を対象に「高校生の地元企業個別訪問に係るアンケート調査」を実施し、高校生が個別に企業訪問できるような環境整備を行い、地元定着に向けた就職活動を支援していく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
新規高卒者県内定着率(ハローワーク酒田管内)	%	75	62.9	64.3	69.1	概ね順調

(2) 市内企業への就職を希望する若者への経済的支援

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
奨学金の返還支援【政策推進課】	○本市回帰及び定着に向けて、市内高校及び東北公益文科大学の対象者に対し、奨学金返還の支援制度の周知を行った。	○若者の本市定着を図るため、奨学金返還の支援制度を継続する。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
奨学金支援制度の申込者	人 (5年間延べ)	60	-	20	19 (累計 39)	概ね順調

1 若者の定住促進

(3) 郷土との絆や愛着の醸成

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
ふるさと休日の取組み 【政策推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の校長会に学校休業日としてもらうよう依頼したほか、小中学生を通じて保護者にも啓発を行い、家族でまつりに出かける機運醸成を図るとともに、企業に対し「ふるさと休日」の趣旨について周知・説明を行い有給休暇取得をお願いした。また、新聞への広告記事の掲載、庄内空港出発口ピー上部への垂れ幕広告掲出などを行い、広く周知を図った。 ○平成28年度実績 小学校26校中 終日休校24校 半日休校1校 中学校8校中 終日休校3校 半日休校4校 ○一定程度市民への浸透が図られているものと考えが、企業における「ふるさと休日」の実施については、企業の業種、事情等様々であり、事業所全体を休業にするところは限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統文化の継承、郷土愛の醸成、交流人口の拡大等につながるものであり、継続して市民への周知や学校休業及び企業への有給休暇取得の協力依頼を行い、「ふるさと休日」の浸透を図っていく。 ○現在は学校の休校が先行しているが、企業に対して、事業所全体を休みにできない場合でも、小中学生の子を持つ職員が優先して有給休暇の取得ができるような働きかけを行っていく必要がある。
「ふるさと酒田」を学ぶ授業の推進 【学校教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校3年社会科で使用する副読本「わたしたちのまちさかた」をもとに、地域産業、地理的環境、地域発展に尽くした先人の働きなどについて学習し、「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を育てる授業に取り組んだ。また、総合的な学習の時間で地域の文化、産業、歴史、人との関わりなどについて学習し、「ふるさと酒田」の良さを発見することができた。事業実施率100%（H28）。 ○随時、新しい情報や資料を掲載できるように教職員が編集委員となって編集作業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科、総合的な学習の時間を通して「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を継続的に育てていく。 ○社会科副読本においては、随時、新しい情報や資料を掲載できるように編集を行っている。 ○「飛鳥いきいき体験スクール支援事業」を通して飛鳥ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学ぶ機会をつくることにより、郷土を愛し、大切にしようとする心を育てる。 ○「自然体験学習推進事業」を通して生まれ育った酒田の自然を体験し、郷土の自然を愛し、仲間と協力する力を育てる。
「酒田の良さ」の情報発信 【社会教育文化課】	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育やマナー教育に加え、酒田市で働く青年を講師に招き地元に対する思いや職業観についての講座を行った。 ○酒田市出身の詩人吉野弘をテーマとした講座・朗読会・講演会を実施した。 ○市内の小学5年生全員を対象に、狂言ワークショップ等伝統文化を継承する事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○酒田っ子はぐくみ事業、ふるさと教育推進事業、未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業を継続して実施する。中学生向けに吉野弘の詩の小冊子を作成する。

重要業績評価指標（KPI）

指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	進捗評価
ふるさと休日（終日）に取り組む小・中学校数	校	31	1	1	27	

1 若者の定住促進

(4) 地元高等教育機関と連携した定住促進策の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
入学者確保対策及び地元企業への就職の促進 【政策推進課、商工港湾課】	<ul style="list-style-type: none"> ○東北公益文科大学卒業生の本市定着を図るため、奨学金の返還支援制度を創設し、補助交付の候補者認定及び予算措置を行った。 ○市内高校生、高校生の保護者、大学生等を対象に、市内企業を見学する「おしごと拝見ツアー」を実施し、地元企業の理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若者の本市定着を図るため、奨学金返還の支援制度を継続する。 ○高校生や保護者も含めた地元企業見学ツアーや各種就職関連セミナーを開催する。また、平成29年度は市内企業約200社を対象に「高校生の地元企業個別訪問に係るアンケート調査」を実施し、高校生が個別に企業訪問できるような環境整備を行い、地元定着に向けた就職活動を支援していく。
市職員の東北公益文科大学修学制度の実施 【総務課】	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度実績1名（平成28年度新規採用者）東北公益文科大学と連携して創設した新規事業で、平成28年度は「地元で就職できて大学で学べる環境が魅力」としてUターン者が利用しており、若者のUターンによる地元就職に貢献している。また、大学では、公益の視点によるまちづくりのノウハウを体系的に習得することが可能であり、市職員としての能力向上と有益な人材確保が可能になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度は、制度利用希望者がいたが、結果的には本市への採用を辞退したため新規の実績はなく、継続利用者1名の実績になっている。今後は、制度利用対象者の範囲の拡大（最終学歴が高卒の大卒程度採用試験合格者）を実施し、引き続き制度周知に努め継続する。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
東北公益文科大学卒業生の地元（県内）定着率	%	64.8	53.0	57.6	44.0	遅れている

2 移住・定住に向けた総合的対策の推進

(1) 移住相談総合窓口の一本化

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
移住相談員の設置 【政策推進課】	○平成27年度に設置した移住相談総合窓口、移住相談員によるワンストップで丁寧な相談を継続して実施した。年度をまたいで継続相談もあるため、実績としての相談者数は減少したが、移住に向けての内容の詰まった継続相談を行えている。	○移住相談総合窓口での移住相談員による丁寧で迅速な相談体制を維持しつつ、関係各課との連携をさらに強化し、相談者のニーズにより迅速に答えていけるよう取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
移住相談総合窓口への相談件数	件/年	100	14	127	105	概ね順調

(2) 移住・定住に関する情報発信の充実

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
移住・定住に関する情報発信 【政策推進課】	○昨年度に引き続き、ガイドブック、チラシを作成したほか、移住定住フェアへの出展、雑誌掲載など広報活動を展開した。加えて、ふるさと会組織や、友好都市武蔵野市に開設した東京吉祥寺テラスなど縁の深いところでの情報発信も行った。	○これまでの取組みをより効果的効率的に実施しつつ、ホームページや各種ポータルサイトを有効活用できるよう、情報発信力の強化に取り組んでいく。
UIJターン人材バンク等による就職情報の提供 【商工港湾課】	○市内へのUIJターン希望者16名が「さかた産業フェアツアー」に参加し、企業関係者との情報交換や移住者交流会を通じて、酒田でのコミュニティ・人間関係を形成し、移住や転職に関する動機付けを図った。 ○市ホームページ内にUIJターン就職希望者がメールアドレスを登録できるページを開設し、登録者に対して、月に2回ハローワーク酒田管内の求人情報や就職イベント情報等をメールで配信した。	○「さかた産業フェアツアー」(定員20名)を実施し、移住や転職に関する動機付けを図る。 ○UIJターン人材バンク登録者に対してハローワーク酒田管内の求人情報や就職イベント情報等をメール配信するとともに、市広報、ホームページ、フェイスブック、合同企業説明会、移住イベント等を利用し登録を促す。 ○酒田市役所東京吉祥寺テラスと連携し情報発信を行う。
就職ガイダンス等に参加する企業への支援 【商工港湾課】	○市内企業が合同就職ガイダンスへ参加した際の助成金の交付、市内企業が大手就職情報サイトを利用した際の助成金の交付を行い、地元企業の就職情報の発信を支援した。	○平成27・28年度の2年間で面談者数698名とKPIを達成したため事業終了。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
移住フェア等ブース訪問者数	人/年	60	-	53	44	概ね順調
就職ガイダンス参加企業の面談者数	件 (5年間延べ)	500	-	390	308 (累計 698)	目標達成

(3) 移住を後押しする支援制度の拡充

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
移住者向けの空き家の改修や住宅取得に対する支援 【政策推進課】	○平成27年度に引き続き、移住者を対象に住宅取得及び空き家改修への支援を行った。	○実績を検証し、より効果的な支援策となるよう、制度の見直しを行いながら、継続していく。
就農者向けの農地借り上げ等に対する支援 【農政課】	○新規参入するにあたり、今後担い手となりえる移住者が農業に参入しやすくするための支援を行った。	○全国規模の新・農業人フェアに出展することで、本市の新規就農、移住者支援策について広く情報を発信する。
お試し暮らし体験の場の提供 【まちづくり推進課、政策推進課】	○平成28年度事業実施なし。	○市の遊休施設を活用し、試験的にお試し暮らし体験事業を実施する。実績を見ながら、そのあり方については引き続き検討していく。
UIJターン就職相談員の配置 【商工港湾課】	○UIJターンコーディネーターを配置し、職歴のある登録者に対しては、求人開拓や会社見学などの調整を行い、UIJターン就職の支援を行った。	○引き続きUIJターンコーディネーターを配置し、職歴に応じた求人開拓や企業見学を行うなど、UIJターン就職希望者に対するきめ細やかな支援を行う。
UIJターン者を正規雇用した企業や正規雇用された就職者の支援 【商工港湾課】	○UIJターン者を正規雇用した企業に対するUIJターン雇用奨励金の交付や、正規雇用されたUIJターン就職者に対するUIJターン定着奨励金の給付を行い、UIJターン就職を支援した。「正規雇用」を要件とすることにより、UIJターン希望者に対する「安定雇用」を促進している。	○平成27・28年度の2年間でUIJターン雇用奨励金27件、UIJターン定着奨励金39件の成果があり、当初の目標を達成したため事業終了。

重要業績評価指標 (KPI)							進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)		
空き家改修、住宅取得補助制度の利用による移住者数	人 (5年間延べ)	75	-	9	15 (累計 24)	やや遅れている	
UIJターンによる就農者数	人 (5年間延べ)	30	-	2	3 (累計 5)	やや遅れている	
お試し暮らし体験の利用件数	件/年 (5年間延べ)	50	-	51	0 (累計 51)	目標達成	
UIJターンコーディネーターによる相談件数	件 (5年間延べ)	600	-	262	269 (累計 531)	概ね順調	
UIJターンコーディネーターの相談により就職した人数	人 (5年間延べ)	50	-	4	8 (累計 12)	やや遅れている	
さかた産業フェアツアー参加者数	人 (5年間延べ)	100	-	20	16 (累計 36)	やや遅れている	

2 移住・定住に向けた総合的対策の推進

(4) 移住者の定着化に向けたフォローアップ

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
移住後のフォローアップ 【政策推進課】	○「庄内で暮らそう！移住者交流会」を組織として立ち上げ、移住者自らが運営企画に携わり、移住者向けの交流会を3回実施した。また、FBページを立ち上げ様々な情報発信を行った。	○移住者交流会は、移住者のネットワーク構築に大きく寄与しており、今後も継続していく。「庄内で暮らそう！移住者交流会」が発展し、更に自主的に活動していけるようサポートしていく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
移住相談窓口を利用した移住者へのフォローアップ率	%	100	-	100	100	概ね順調

3 元気な高齢者の移住促進

(1) 「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の実現に向けた検討

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
酒田市における「生涯活躍のまち」事業の可能性検証 【政策推進課】	○友好都市武蔵野市に連携協定を締結した庄内銀行とともに、酒田市の情報発信拠点として、東京吉祥寺テラスを開設した。また、食を通じた交流の深い生活クラブ生協と連携し、酒田市の情報発信、事業のプロデュースを行い、首都圏におけるニーズの把握、検討を行った。	○引き続き、東京吉祥寺テラスの活用、生活クラブ生協との連携のもと、酒田市の情報発信を強化していき、首都圏のニーズを踏まえ、生涯活躍のまち構想の検討を深めていく。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
本市における事業可能性地域の選定	箇所数 (5年間延べ)	1箇所以上	-	3	0 (累計3)	目標達成

基本目標Ⅲ：“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる①

【数値目標】 5年後の合計特殊出生率 1.7（出生数：760人）（H25：1.54（出生数：734人））（※5年後の合計特殊出生率が1.54の場合の出生数：690人）

1 オール酒田による出会い・結婚支援の推進

（1）出会いの場を創出するための結婚サポーター活動の推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
結婚サポーターによる出会いの機会の提供	○市に登録した結婚サポーターが、結婚を望む独身男女に出会いの機会を提供し、仲介役となって活動した。結婚サポーターは、結婚サポーター協議会を毎月1回開催し、情報交換などを行った。結婚サポーターを介しての成婚件数は、事業開始以来最多の13組となった。	○今後も、結婚サポーターの増員や婚活イベントの実施等により、より多くの出会いの場を提供するとともに、結婚サポーターのスキルアップを図り、成婚数の増加を図る。
結婚サポートセンターによる相談体制の充実【まちづくり推進課】	○親の理解・協力を得ることで、結婚を希望する独身男女が結婚しやすい環境となるよう、親世代対象のセミナー＆相談会を開催した。 ○結婚推進員が結婚に関する相談に対応した。また、月2回の夜間相談も開催するなど、相談体制の充実を図った。	○引き続き、結婚推進員が結婚相談に対応するほか、セミナー等の開催により、結婚を希望する独身男女が結婚しやすい環境づくりに努める。 ○より相談しやすい体制を整えるため、現在の夜間相談に加えて休日相談も試行的に実施し、ニーズの把握に努める。 ○結婚サポーターによる登録・相談会を開催し、結婚サポーター制度の更なる周知を図る。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
結婚サポーターを介しての結婚数	件/年	20	7	11	13	概ね順調

（2）地域の特性を生かした婚活イベントの開催

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
出会い、交流イベントの開催【まちづくり推進課、農業委員会、各総合支所】	○地域の特性を活かした婚活イベントを開催し、結婚を希望する独身男女に多くの出会いの機会を提供した。男性参加者の固定化と女性参加者の申し込み不足が課題となる。	○農業委員会が行う単発イベントとしての在り方については、一定の役割を果たしたものと考えており、イベントの実施については今年度を持って廃止の予定をしている。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
婚活イベント等の参加者数	人 (5年間延べ)	1,200	-	303	217 (累計 520)	概ね順調

基本目標Ⅲ：“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる②

【数値目標】 5年後の合計特殊出生率 1.7（出生数：760人） （H25：1.54（出生数：734人））（※5年後の合計特殊出生率が1.54の場合の出生数：690人）

1 オール酒田による出会い・結婚支援の推進

（3）婚活に取り組む民間団体との情報の共有化及び企業と連携した結婚支援事業の展開

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
オール酒田による総合的な婚活支援事業の展開 【まちづくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○市及び婚活に取り組んでいる民間団体が連絡協議会を設立し、その中で各団体が取り組んでいる婚活に関する情報を収集・共有し、ホームページ、フェイスブック、チラシ等により一元的に発信した。 ○自社社員の結婚を支援する企業、婚活等の結婚に関する活動を支援する企業等と連携し、オール酒田で結婚を支援した。 ○更に、市内在住夫婦に対するインタビュー記事をホームページ上で発信し、結婚に対するポジティブなイメージの醸成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚を支援していく必要性を本気で考える市内企業・団体等が出てきたことから、それら企業等と連携を図り、より効果的で実効性のある取組みとなるよう、事業内容を組み立てていく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
婚姻率（婚姻数/住基台帳人口×1000）	‰	4.5	4.0	4.5	4.4	概ね順調

基本目標Ⅲ：“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる③

2 妊娠・出産から子育てまでのライフステージに応じた支援

(1) 子育ての不安感・負担感の解消

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
各種健診・相談 【健康課】	○妊婦健診、母子相談、乳幼児健康診査、各種相談等、関係課と連絡・連携し事業を行った。また、乳幼児健診会場を健康センターに統合し妊婦健診、母子相談、乳幼児健康診査、各種相談等、関係課と適正な時期での健診を行った。 健診未受診者の状況把握100%（H28）。	○乳幼児健康診査は多職種による相談体制の充実を図っている。健診で解決できない問題は引き続き地区担当保健師による継続支援や、子育て支援課、発達支援室と協力しフォローにより子育ての不安感等の解消を図る。
保育料の同時入所要件の緩和 【子育て支援課】	○保育園等は、同時入所要件を廃止し、第1子と数えるきょうだいの範囲を小学校6年生まで拡大し、第2子1/3負担、第3子以降無料とした。幼稚園についても、きょうだいの範囲を小学校6年生までに拡大し、就園奨励費を助成した。	○子育て世帯の経済的負担感を解消することで、少子化対策として子どもを産み育てやすいまちづくりに大きな効果が期待されるため、今後も継続していく。 ○軽減措置を継続するとともに、子ども・子育て支援事業計画中間評価のアンケート調査などにより、効果の検証を行っていく。 ○年度当初に待機児童はないが、年度途中において発生が見込まれるため、その解決へ向けた保育士の確保等に取り組む。
子どもの医療費無料化 【子育て支援課】	○少子化対策として、また、子どもの健康な発育支援と子育てしやすい環境づくりを目的に、子どもの医療費無料化を平成27年度から入院・外来とともに中学3年生まで拡大し、子育て世帯等の医療費の負担軽減を図ることにより、子育ての不安感・負担感の解消に大きく効果を発揮している。	○「未来の明るい酒田に向けた人口減少・少子化対策」の推進のため、引き続き、子育て支援医療証の中学3年生までの医療費無料化を継続するとともに、その効果の検証を踏まえた取組みを行っていく。
預かりサービスの充実 【子育て支援課】	○飛島を除く全小学校区への学童保育所(22ヶ所)の設置、ファミリーサポートセンターの利用登録者の拡充、特別保育事業一時預かり保育への助成の充実、障がい児保育では、重度障がい児保育への補助金の増額を図った。 ファミリーサポートセンター年間登録人数471人（H28）	○放課後児童健全育成事業については、児童数の推移やニーズの動向を見ながら、適切な学童保育指導が実施できるよう事業の充実を図っていく。 ○育児と仕事の両立を推進するとともに、育児サポート体制の充実を図るため、ファミリーサポートセンター運営事業を継続する。 ○特別保育事業では、預かり保育や延長保育など多様なニーズに応じた保育を実施しており、継続して実施していく。 ○障がい児保育については、年々増加傾向にあることから、障がい児保育に対する補助金単価を一部増額するなど支援の充実を図っており、継続して実施していく。
妊娠・出産・育児の切れ目のない相談・支援の場づくり 【健康課】	○母子健康手帳交付から、新生児訪問、乳幼児健康診査、乳幼児健康相談、各種教室等で相談支援を行った。子育て支援センター子育て相談員、児童センター児童厚生員を増員することで子育てに関する相談がしやすい環境を整えた。	○平成29年度から妊娠期から子育て期の切れ目のない支援ができる体制づくりを目指し、健康センター内に子育て世代包括支援センターを開設し、母子コーディネーターを配置し相談しやすい体制づくり行っていく。また関係機関とのネットワーク構築や妊産婦向けのサービスを充実させる。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
保育所の待機児童数	人/年	0	0	0	0	概ね順調
ハイリスク妊婦への妊娠期の相談等による支援	%	100	11.9	27.8	60.7	概ね順調

基本目標Ⅲ：“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる④

2 妊娠・出産から子育てまでのライフステージに応じた支援

(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の促進と女性の活躍促進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
企業啓発の充実 【子育て支援課】	○企業における子育て支援の充実とワーク・ライフ・バランスの実現へ向けて、市全体にその理念の浸透を促すための講座やセミナーを開催した。また、子育てを応援する事業所に対して「山形いきいき子育て応援企業」の登録・認定を促進するため、関係リーフレットを配布した。	○企業における子育て支援の充実とワーク・ライフ・バランスの実現へ向けて、市全体にその理念の浸透を促すための啓発を継続する。
女性の能力や感性を活かしやすい産業振興・人材育成 【商工港湾課】	○酒田市雇用創造協議会と連携し、女性求職者を対象とした「子育てママの再就職準備セミナー」「女性のための再就職支援セミナー」を実施した。また、事業主を対象とした社員満足（ES）向上セミナーを実施し、職場環境の改善を図った。	○酒田市雇用創造協議会と連携し、女性求職者を対象としたセミナーを実施する。また、新たに事業主を対象として女性参画型の経営戦略をテーマとしたセミナーを開催し、女性活躍を促進する。
女性の就業支援体制の確立 【商工港湾課】	○平成28年4月に「ハローワークプラザさかた」内に「マザーズコーナー」が開設された。	○国・県と連携し、県内2カ所目となる「マザーズジョブサポート」を設置する。 ○育児休業を取得しやすく、職場に復帰しやすい環境の整備を図り、働く女性の活躍を促進する。 ○女性従業員が働きやすい環境の整備を図り、働く女性の活躍を促進する。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
県が実施する「山形いきいき子育て応援企業」の市内認定団体数	社 (5年間延べ)	63	33	42	4 (累計 46)	概ね順調

2 妊娠・出産から子育てまでのライフステージに応じた支援

(3) ライフプランの啓発や出産適齢期等の知識の普及

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
妊娠・出産・子育てに関する正しい知識の普及・啓発 【健康課】	○これから妊娠、出産、子育てを迎える世代に対し、ライフプランの啓発講座の実施や、出産適齢期についての正しい知識を身につける機会を提供することにより正しい知識の普及啓発を行った。	○事業実績を踏まえ、より効果的な事業を実施し、妊娠、出産、子育てを迎える世代に対して、出産適齢期や不妊治療の時期などの情報提供や知識の普及啓発を図る。
家族や子育てに対するポジティブイメージの醸成 【子育て支援課】	○家族の素晴らしさや大切さを学ぶことを目的とする中高生が企画・実施する親子参加型のコンサートイベントを行い、子育てに対するポジティブイメージの醸成を図った。	○若者層への意識付けを中心に、事業内容について更に検討を重ね、子育てに対するポジティブイメージの醸成を図る。
赤ちゃんとのふれあい体験 【子育て支援課、社会教育文化課】	○子育ての楽しさが実感できるよう、小・中・高校生を対象に赤ちゃんとのふれあい体験やお母さんとの談話を通して、子育てに対するポジティブイメージの醸成を図った。赤ちゃんとのふれあい体験やお母さんとの談話を通して、命の大切さを感じ、自分も愛情いっぱい育ててもらったことを実感して親への感謝の気持ちが生まれている。また中学生は、自分のライフプランについて考える機会にもなっている。	○子育ての楽しさが実感できるよう、高校生を対象に赤ちゃんとのふれあい体験事業を継続し、子育てに対するポジティブイメージの醸成を図る。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
妊娠・出産に関する正しい知識の理解度	%	100	-	93	93.8	概ね順調
乳幼児とのふれあい体験を通じて子育てにポジティブイメージを持った割合	%	100	-	子育て支援課主催79% 社会教育文化課主催99%	子育て支援課主催82% 社会教育文化課主催93.6%	概ね順調

基本目標Ⅲ：“結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる⑥

(4) 不妊に悩む夫婦に対する支援

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性				
不妊治療費に対する経済的負担の軽減【健康課】	○保険診療とならない不妊治療費の一部、上限10万円、男性不妊治療については上限5万円を助成することにより、不妊に悩む方の経済的負担の軽減を図った。	○補助対象の年齢や回数に変更され、延べ件数は減少している。男性不妊治療については、実績として年1件であるが、費用も高額であり助成の拡大を検討する。				
重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
不妊に悩む方への特定不妊治療費助成件数	件/年	150	117	122	87	遅れている

3 特色ある教育の推進

(1) 学力向上対策と教育支援の充実

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性				
学力向上対策の充実【学校教育課】	○各校において楽しい学校生活を送るためのアンケート（Q-U）と標準学力検査を実施し、集団づくりと学習指導の総合的な検証を通して学力向上に取り組んだ。また、教員を対象に、算数・数学科、英語科の授業改善へ向けた実践的な研修と先進校視察を実施し指導力向上を図った。 ○教員の「単元を構成する力」、「教科の本質やつけたい力を明確にした1時間の授業をつくる力」を高めるために小学校3校に研究委嘱を行い、実践内容を各校に広げ授業改善に取り組んだ。	○全国学力・学習状況調査、NRTテスト及びQ-Uを活用し、PDCAサイクルを有効に機能させる。教師の指導力、担任力の向上、子どもの学ぶ意欲、学習習慣の視点から、「酒田の子ども学力向上推進会議」で酒田の子どもの学力向上について協議し、子ども達の学力向上を推進する。 ○委嘱研究、各校の学力向上に向けた取組みをお便り、研究冊子などで発信し、各校の取組みに生かせるようにしていく。 ○中学校数学科、英語科の教員の指導力向上と授業改善のため、秋田県を含め学力向上に取り組んでいる先進校視察を行い継続して学力向上に取り組んでいく。 ○中学校の部活動について、生徒、教員が過度な負担にならないように検討していく。				
教育支援体制の充実【学校教育課】	○小・中学校において、教育支援員を60名配置し、個別の支援を必要とする児童生徒に対するきめ細かな対応により、児童生徒の学校生活・学習活動の充実を図ることができた。	○個別の支援を必要とする児童生徒の学校生活・学習を支援するため、教育支援員を引き続き配置し、一人ひとりのニーズに合った教育の充実に努める。 ○支援の質を高めるために年2回の研修会の内容の充実を図っていく。				
重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
標準学力検査における全国標準以上の教科数の割合 小学校	%	100	100	100	100	概ね順調
標準学力検査における全国標準以上の教科数の割合 中学校	%	100	71	71	58	遅れている

3 特色ある教育の推進

(2) 英語教育の充実

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
幼少期からの英語教育 【社会教育文化課】	○市内4会場で英語教室を開講し、ネイティブスピーカー等の講師による英語レッスンを実施した。講師や生徒同士で積極的に英語でのコミュニケーションをとる様子がみられる。	○平成32年度より外国語活動が小学校3・4年生から始まり、外国語が小学校5・6年生より教科化されることから、平成29年度より学校での外国語教育についてALTの増員など充実を図ることとし、平成25年度から実施してきた本事業は、今年度いっぱい終了とする。
中学校における英語検定の3級合格者数を増やす支援 【学校教育課】	○ALTの活用や指導の工夫を通して、中学生の英語への興味・関心を高め、コミュニケーション能力を高める授業改善を図った。 ALTの授業実施校 34校（H28）。 ○各中学校に英語検定の受験日程ポスターと5級から準2級までの問題集を配付し、中学生の英語検定への受験を積極的に推奨した。	○平成30年度より小学校高学年で英語が教科となり、週2時間、年間70時間実施し、中学年では外国語活動として週1時間、年間35時間実施することを受け、さらに中学校での英語教育充実に向けて、現在の3名体制のALTをH29年8月より8名体制として英語教育を推進していく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
参加者のレッスンの理解度	%	85	81	85	79	遅れている

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる①

【数値目標】 住民意識調査で「住みよい」と回答した者の割合 100% (H27:72.6%)

1 広域連携の推進による地域の活性化

(1) 山形新幹線庄内延伸の実現

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
関係機関の理解促進や市民・県民の機運醸成【政策推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○陸羽西線高速化促進市町村連絡協議会による関係機関への要望活動の実施、同協議会主催による講演会の開催や広報など、機運の醸成・周知啓発を図りながら必要性を訴えた。 ○陸羽西線高速化促進市町村連絡協議会に、平成28年度から鶴岡市、三川町及び最上地域の市町村から参画いただき、庄内と最上が一体となり運動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○陸羽西線高速化促進市町村連絡協議会を中心に庄内と最上が一体となって庄内延伸に取り組み、庄内延伸の必要性を訴えながら、県やJRに対して近々事業着手となるよう要望する。 ○陸羽西線を活用した庄内と最上の交流促進イベントを開催・支援する等、陸羽西線の利用促進及び機運醸成や啓発の面からも他地域との連携を拡大・深化させていきながら、延伸実現に向けた取組みを推進する。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
山形新幹線庄内延伸の事業化に向けた検討		事業化に向けた検討	-	要望活動等の実施	要望活動等の実施	概ね順調

(2) 庄内北部定住自立圏の形成

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
定住自立圏構想の推進【政策推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○定住自立圏共生ビジョンに基づく連携事業を実施し、圏域の人口定住の促進、住みやすい地域社会の形成を目的とする定住自立圏構想の推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定住自立圏共生ビジョンに基づく連携事業の実施、見直しを行う。 ○未着手の連携事業について、事業の着手を図る。

重要業績評価指標 (KPI)						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
定住自立圏共生ビジョンの連携事業の推進		連携事業の推進	-	連携事業の実施	連携事業の実施	概ね順調

(3) 広域観光の推進(再掲) I-1-(5) 参照のこと

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる②

2 賑わいのある生活基盤づくりの推進

(1) 中心市街地や商店街の賑わい創出

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
中心商店街の活性化、街なか観光の推進、街なか交流人口の増進【都市デザイン課、商工港湾課】	<ul style="list-style-type: none"> ○駅周辺整備事業については、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の事業主体となる㈱光の湊が設立し、基本設計が発注された。いよいよ計画段階から実施段階にステージが移り、中心市街地（駅前エリア）の賑わい創出の実現を目指していく。 ○酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業については、市民意見等を伺いながら、整備基本計画を策定した。次年度以降に酒田駅前地区第一種市街地再開発事業において予定される基本設計、実施設計等に整備基本計画を反映させ、中心市街地（駅前エリア）の賑わい創出の実現を目指していく。 ○「中町モール」周辺の賑わいづくりのため、集客力のある店舗誘致を行うとともに、中心市街地の賑わいの拠点として整備した「屋台村」についても、1年を経過したことから、より集客力のある店舗にしていくため、専門家による経営診断を実施した。また空き店舗を活用した「街なかキャンパス」の運営については、学生の発表を初め、各種企画展示を年間を通じて行い、来街者の増加に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅周辺整備事業については、平成29年度は、基本設計、再開発施行認可、実施設計等を実施予定としている。平成30年度からは工事を予定しており、平成32年度の完成を目指していく。 ○酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業については、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業において、平成29年度実施する基本設計、実施設計に並行して、具体的な酒田コミュニケーションポート（仮称）のサービス、運営体制、施設計画などを定める実施計画の策定を進める。 ○中心市街地の核である「中町モール」周辺の賑わいづくりに向けて、モールに面した部分をフードコートとして整備し、一定の賑わい創出に結びついている。今後は、モールへの大屋根設置等のハード整備も予定されているので、各種商店街イベントなどのソフト事業と連携するとともに、関係機関と一体となって更なる中心商店街の活性化に結びつく取組みを行っていく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
歩行者・自転車通行量	人/日	2,779	2,718	2,482	2,293	遅れている
商店街空き店舗数	件	83	99	103	100	遅れている
観光施設入込数	人/年	1,648,000	1,571,285	1,594,380	未確定	
公共・公益施設利用者数	人/日	953	363	242	425	やや遅れている

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる③

2 賑わいのある生活基盤づくりの推進

(2) 小さな拠点とネットワークの形成

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性				進捗評価
「小さな拠点」の形成に向けた検討 【まちづくり推進課】	○各総合支所における「小さな拠点」形成に向けて、平成29年度からのモデル事業実施に向けて準備を行った。	○平成29年度より八幡・大沢地区、平田・田沢地区で「小さな拠点」形成に向けてモデル事業を実施する。今後、4年間のモデル事業を経て「小さな拠点」形成を目指す。モデル事業での成果をふまえ、他地区への展開を検討する。				
重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
「小さな拠点」の形成に向けた検討		形成に向けた検討	-	検討	検討・準備	概ね順調

(3) 路線バス等地域公共交通の利用促進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
定時定路線型のバス路線の維持 【商工港湾課】	○利用者数の減少、運行維持費、バス車両の更新費用等による財政上の負担が大きくなっている。	○本市地域公共交通のマスタープランとして策定した酒田市地域公共交通網形成計画を、具体的な実施に向けて定めた酒田市地域公共交通再編実施計画（案）に基づき、バス路線の統合再編等を進めていく。
予約型公共交通のデマンドタクシーの運行 【商工港湾課】	○車両1台あたりの利用者数がなかなか伸びない。	○本市地域公共交通のマスタープランとして策定した酒田市地域公共交通網形成計画を、具体的な実施に向けて定めた酒田市地域公共交通再編実施計画（案）に基づき、デマンドタクシーの見直し等を進めていく。
路線バスの維持・確保 【商工港湾課】	○利用者数の減少や運行コストの増大により補助金額が増加している。	○本市地域公共交通のマスタープランとして策定した酒田市地域公共交通網形成計画を、具体的な実施に向けて定めた酒田市地域公共交通再編実施計画（案）に基づき、バス路線の統合再編等を進めていく中で、費用負担や補助のあり方を検討していく。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
乗合バス乗車人数	人/年	178,000	174,896	170,693	173,383	遅れている
デマンドタクシー運行1台あたり人数	人	1.70	1.69	1.61	1.58	遅れている
バス路線数	路線	9	9	9	9	概ね順調

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる④

2 賑わいのある生活基盤づくりの推進

(4) 地域コミュニティ活動の確保

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
「ひとづくり、まちづくり総合交付金」の創設 【まちづくり推進課】	○平成28年度から、従来の補助金制度を見直し「ひとづくり・まちづくり総合交付金」を創設し、地域に合った取組を地域コミュニティ自らが自由に選択し実行できる仕組みを整備した。 コミュニティセンター年間利用者数 368,755人（H28）。	○交付金制度スタートから1年経過する時期に合わせて、平成29年6月にコミュニティ振興会及び自治会を対象としたアンケートを実施し、制度内容を検証し改善していく。 ○交付金に追加して統合できるものは統合していく。 ○自由度の高い交付金制度を活かし、地域を元気にするようなそれぞれの工夫を促していく。
外部人材の活用 【各総合支所】	○都市に住む若者を受け入れ、地域おこし活動の支援や高齢者の生きがいづくり、地域の情報発信、伝統工芸等の伝承の仕組みづくり等に参画してもらうとともに、その定住・定着を図りながら、地域活性化を図った。	○未配置の地区への配置など一層の体制の充実を図り、地域住民と連携しつつも地域住民とは違った目線での産業振興、日常生活における課題の解決に引き続き取り組んでいく。 ○平成29年度から実施する「小さな拠点」形成に向けたモデル事業において、地域おこし協力隊とも協働し推進していく。
飛島地域の振興 【まちづくり推進課】	○人口減少や高齢化が著しい飛島地域において、コミュニティ機能を維持し、安心して住み続けられる島とするため、島民、民間団体、大学、行政及び外部人材が一体となって、とびしま未来協議会によるイベントの実施や情報発信等に取り組んだ。 ○飛島ガイド養成講座の実施等、島民が一体となってジオパークの視点から島の魅力を伝えられるように機運醸成を図った。	○居住用に空き家を利活用する際の修繕や、安定した収入を得られる仕事の創出が課題となっていることから、受入環境の整備について検討していく。 ○鳥海山・飛島ジオパーク認定を契機に、飛島の地域資源を島民自らがジオパークの視点から掘り起こし、観光誘客につなげる提案をしてもらう場として、東北公益文科大学と連携しワークショップを開催する。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
本市への地域おこし協力隊員数	人	8	1	2	3	やや遅れている
ジオパーク認定観光入込者数	千人/年	104	-	99	79	概ね順調

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる⑤

2 賑わいのある生活基盤づくりの推進

(5) 高齢者や障がい者が活躍できる環境づくり

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
高齢者の就職支援と生きがいづくり 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の就労・社会参加促進等のためのシルバー人材センターに対する助成や高齢者の生きがいと健康づくり等諸活動促進のための老人クラブに対する助成を行った。 ○平成28年度のシルバー人材センターの受託件数は8,848件で平成27年度の8,995件を若干下回るものの、地方公共団体からの委託業務のほか、民間・一般家庭の庭仕事、障子や襖の張替え作業、更に高齢者や病弱者の在宅介護や家事一般、買い物等幅広い分野に及んでおり、今後も安定した事業運営が期待される。 ○老人クラブの会員数の減少は平成28年度も続いているが、老後の生活を健全で豊かにするため、高齢者が自主的に組織し、教育の向上、健康保持、社会奉仕など幅広い活動は評価に値する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○シルバー人材センター会員の定年延長や定年制の廃止による会員確保が課題となっている中、新聞への掲載等での入会啓発活動のほか、農業や育児支援等といった新規就業分野への取組みを支援する。 ○老人クラブについては会員数の減少傾向が続いていることから、広報などを通じて会員増加のための取組みを支援する。また、介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援サービスの担い手など期待される新しい役割に対応したクラブ活動の発展を支援・促進する。
障がい者雇用法定雇用率等の周知 【商工港湾課】	<ul style="list-style-type: none"> ○9月の障害者雇用支援月間に合わせて、法定雇用率、障害者雇用に関する助成、支援制度を市広報に掲載し周知するとともに、常用労働者50人以上の企業を訪問した際に法定雇用率の周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、9月の障害者雇用支援月間に合わせて、法定雇用率、障害者雇用に関する助成、支援制度を市広報に掲載し周知するとともに、常用労働者50人以上の企業を訪問した際に法定雇用率の周知を行う。

重要業績評価指標（KPI）

指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	進捗評価
シルバー人材センター会員延就労人数	人/年	97,000	94,640	96,595	90,690	遅れている
民間企業の障がい者雇用率 (ハローワーク酒田管内)	%	法定雇用率2%の維持	2.07	2.04	2.13	概ね順調

(6) 東北公益文科大学と連携したまちづくりの推進

体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
地域課題に係る調査研究委託 【政策推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○以下4件の調査研究に取り組み、市の施策に反映する知見を得た。 <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市における放課後学習支援に関する調査研究 ・庄内地域の地域人材育成にかかる社会的認証システムに関する研究 ・地域防災講演会の実施 ・地方公共団体における行財政健全化に向けた事務事業評価指標の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の施策・地域課題の解決等に東北公益文科大学の知見・資源を生かすため、大学連携の核として今後も継続する。

重要業績評価指標（KPI）

指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	進捗評価
東北公益文科大学の調査、研究結果を活用した事業数	件 (5年間延べ)	3	0	2	2 (累計4)	目標達成

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる⑥

3 安全・安心な暮らしを守る環境づくり

(1) 防災体制の強化

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
災害時の避難体制の強化と情報提供体制の充実及び避難所への備蓄の強化 【危機管理課】	○新津波ハザードマップを作成し全戸配布した。また、土砂災害ハザードマップを作成し対象世帯へ配布した。そのほか、自治会長等へ防災ラジオの無償貸与を行った。また、避難所への備蓄品の整備、津波避難経路の誘導看板設置等を行った。	○最上川・赤川・新井田川等の新たな洪水浸水想定を受け、洪水ハザードマップを更新して全戸配布し、排水対策として排水ポンプ車を導入・配備し、市民の安心安全に取り組んでいく。 ○災害情報伝達手段として、防災ラジオの普及を促進していく。 ○避難所への備蓄品の整備、津波避難経路の誘導看板設置等を引き続き行っていく。
防災資機材等の整備に対する支援 【危機管理課】	○酒田市内の自主防災組織は、旧酒田市内の小規模な自治会等を除き組織化されている。各自主防災組織に対し、防災資機材を整備する際の補助金（39件、3,159,000円）を交付した。	○自主防災組織に対する支援を継続する。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
自治会自主防災会の組織率	%	100	92	92	95	概ね順調

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる⑦

3 安全・安心な暮らしを守る環境づくり

(2) 健康で生きがいのある生活と地域包括ケアの推進

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
休日診療所及び平日夜間の初期救急医療体制の有効運営【健康課】	○地域の初期救急医療確保のため、休日の日中の患者を受け入れる休日診療所の運営と、日本海総合病院が行う夜間診療（初期救急分）に対して、その経費の一部を酒田市が負担した。	○地域の初期救急医療確保のため、医師会、日本海総合病院の協力を受け、休日診療所等の運営を図る。
がん検診の受診率向上【健康課】	○平成26年度より、胃がん検診の受診率向上と予防対策に向け、ピロリ菌検査事業（節目年齢対象者に無料クーポン券の送付）を実施した。継続事業として、働きざかり（胃・大腸がん検診）・女性特有（乳・子宮がん検診）のがん検診推進事業、土曜、日曜日検診、早朝がん検診、託児サービス等を実施した。	○女性特有のがん検診及び働きざかりの40歳以上の市民の胃がん、大腸がん検診の受診率向上に向け、がんの早期発見や正しい健康意識の普及啓発を行い、がんによる死亡の減少と健康増進を図っていく。 ○胃がんの主な原因がピロリ菌であることから、ピロリ菌の有無を検査し、除菌を促進することで胃がんや胃潰瘍等の予防につなげ、市民の健康増進を図っていく。
健康増進施設の整備【健康課】	○中町の中心市街地にある空き施設（旧共栄ビル）を利用し、市民の健康づくりと街のにぎわいづくりを融合させた中町にぎわい健康プラザを整備した。平成29年4月のオープンに向け、平成28年度は、施設の改修工事等を行った。	○新たに開設した中町にぎわい健康プラザでは、健康増進ゾーンにおいては、市の保健事業として各種運動教室の実施などをはじめ、市民サークル等が自主的に健康づくり活動を行うなどの多様な活用を促すとともに、集いのスペースにおいては、市民団体、商店街等のイベントによる交流の場に積極的に活用いただき、健康づくりとまちのにぎわいづくりを融合させた中心市街地の活性化を図っていく。
地域包括ケアシステムの推進【介護保険課】	○介護保険法の改正により地域支援事業の中に創設された生活支援体制整備事業開始に向け、生活支援コーディネーターの配置の準備、生活支援体制整備協議体設置に向けた協議体準備会を実施した。	○平成29年4月1日付けで生活支援コーディネーターを第1層（市全体に1名）、第2層（各地域包括支援センターに1名ずつ）に配置済み。第1層と第2層の生活支援コーディネーターが連携し多職種連携の体制づくり、生活支援体制整備協議会と協働し生活支援体制を構築していく。 ○介護予防・生活支援サービスの充実を図っていくため、生活支援コーディネーターや生活支援体制整備協議会と連携しながら、地域ケア会議のあり方を検討する。

重要業績評価指標（KPI）							進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)		
がん検診の受診率（胃がん検診）	%	50	32	32.6	31.5	遅れている	
がん検診の受診率（大腸がん検診）	%	50	44.6	47	47.9	概ね順調	
健康増進施設の整備	箇所数 (5年間延べ)	2	1	1	1 (累計 2)	目標達成	
地域コーディネーターの支援により形成された社会資源 (地域でのサロン活動、ネットワーク会議等) の数	件数 (5年間延べ)	50	12	40	39 (累計79)	目標達成	

基本目標Ⅳ：“つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる⑧

3 安全・安心な暮らしを守る環境づくり

(3) 空き家対策とストックマネジメント

具体的事業	平成28年度事業の実績	今後の方向性
空き家等の適正管理の促進 【まちづくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○管理不全な空き家等の所有者等へ、法に基づき助言・指導等の措置を行った。また、啓発パンフレットの送付や所有者不存在案件への必要最低限の危険回避策の実施等を行い、空き家等の適正管理の促進を図った。管理不全な空き家等の改善件数は356件（H24-H28の合計値）。 ○自治会空き家等見守り隊は123自治会（458自治会中）より登録があり、空き家等の適正管理の促進に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理不全な空き家等の所有者等への法に基づいた助言・指導等、啓発パンフレットの送付、自治会空き家等見守り隊の普及等を行うことで空き家の適正管理の促進を図り、地域住民の良好な生活環境を守る。
利用可能な空き家等の利活用 【まちづくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○不動産業協会2団体、建設業協会、司法書士会、行政書士会、土地家屋調査士会、金融協会及び市で構成する酒田市空き家等ネットワーク協議会による無料相談会を年2回開催（相談者計53組）するなど、関係団体と連携を図りながら利用可能な空き家の賃貸・売買等の促進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○利活用可能な空き家の売買・賃貸を促進するためには関係団体（不動産協会等）との連携は必須であり、今後も継続して連携し、無料相談会の実施等を行う。 ○インターネット上で広く物件情報を発信することで空き家等の利活用の更なる促進を図るため、平成29年度中に空き家等情報サイトを新規に開設する。
アセットマネジメントによる適切な施設管理 【行財政改革推進室】	<ul style="list-style-type: none"> ○インフラを含めた公共施設全般について、現状と将来の見通しを踏まえ、総合的かつ計画的な管理を推進するため、「酒田市公共施設等総合管理計画」を策定した。 ○中長期的な視点で計画的に建物を保全するための基本的な方向性を定めるとともに、ライフサイクルコストの縮減及び財政負担の平準化を図ることを目的として「酒田市公共施設長寿命化計画」を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設の適正な管理を行うとともに、長寿命化を図ることにより、維持管理コストや将来更新費用の平準化と低減を図る。

重要業績評価指標（KPI）						進捗評価
指標	単位	目標	基準値	実績(H27)	実績(H28)	
特定空家等のうち改善した空き家等の件数	件/年	80	62	76	69	概ね順調
空き家等利活用件数	件 (5年間延べ)	50	-	16	20	概ね順調